

学び続ける学校

別海町立別海中央中学校 校長室便り

発行 校長 青坂信司

第09号平成27年11月19日(木)

※「人の集まる場所で周囲に貢献する心を持つと、脳の力を発揮できるようになる」

生徒一人ひとりの個性を大切にすること

◆前任の校長、下地先生が今年度の「学校経営の基本」の中に次のことを書いている。

2. 違うから面白い。

人は生まれながらにして、それぞれ顔・形が違います。成長するにつれ性格の違い、行動の違いが大きく現れてきます。

しかし、その人その人の生き方や考え方を否定する権利は誰にもありません。大切なことは、お互いの立場をよく知る努力を通して、お互いが影響し合う姿そのものだと思います。そこそが大切な人間の資質であると思います。この資質を学ばすことが中学校にとって最も大切な事であると思います。

私たちが相手をするのは、熱き血潮の通っている人間です。私たちの生き様は良しにつけ悪しきにつけ、必ず周りに影響を及ぼします。その影響そのものが教育であると思います。私は、教育はどこを切っても同じという金太郎飴であってはならないと思います。人が人を教育すること。良いも悪いも含め、その全てがとても貴重な時間なのです。

また、人間である以上パーフェクトはあり得ないし、望むべきでないと思います。しかし、より良いものを求めていくことは非常に重要であり、それぞれが、それぞれの立場で理想に向かって懸命に努力する姿そのものが教育の究極の姿だと思います。

人は違うから面白いのです。違いを分かり合うことこそが大切なのです。個性とは、良いも悪いも含めて個性なのです。悪いものを除去し良いものをお願いがちですが、「除去するのではなく(良いものを伸ばすことで)目立たなくする」そんな発想の違いが必要だと思います。悪い物を全部取り除くと、長所も取り除かれ、小さな、小さな人間にしかありません。

⇒校長自身の根底にある考え方です。

◆人はさまざまな人と出会って成長していく。さまざまな出会いがあるからこそ、人の世は面白い。人には、違いがあるからこそ、人からの学びが成り立つのである。「A君の考えって面白いよな。自分には考え付かないことだよ」「B君って、いつもおとなしいのに、ここぞというときに凄いのことを発言するよ」「Cさんって勉強できないけど、誰に対しても優しいよね。だから、みんなから好かれているよね」「俺は、運動苦手だけど、D君はどんなスポーツもできるよ」等、それぞれの違いを認め、そこから自分に少しでも取り入れられることを学んでいく。そこに人としての成長がある。

◆集団は、人それぞれの個性を大事にしなければならない。その前提が崩れると、人が人を傷つけ、人を人として考えない悪しき風潮が生まれる。その典型が「いじめ」である。いじめは、極めて深刻な人権侵害である。人の成長を奪い、深く傷つけることは絶対あってはならないのである。

◆学期ごとにいじめ調査を行っている。また、必要に応じて面談を行い、いじめがないか把握しようとしている。もちろん、そのことは大切なことだ。しかしそれ以上に大切なことは、学校全体が一人ひとりの個性を大切にし、認め合っているのか。日頃の触れ合いを通して、生徒一人ひとりの何気ない表情や行動等から、何か悩みや悲しみを抱え込んでいないのかを察する教師の日頃のあり方が問われるのだと私は考えている。